

令和4年度自治会人権・同和問題学習会の実施状況について

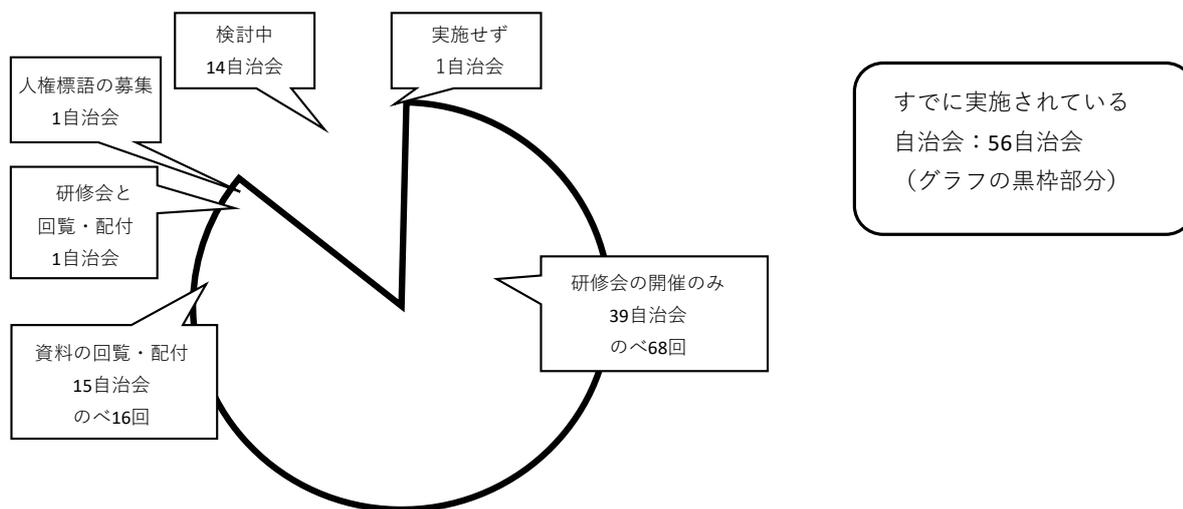
【資料2】

1. 実施状況

(1)実施方法の内訳

(のべ実施回数)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
研修会を開催	2	8	16	5	3	9	16	5	1	3	68
人権資料を回覧			2	2			1				5
人権資料を全戸配付			4	1	1	1		1	2	1	11
人権標語の募集							1				1
行事参加者に資料配付							1				1
合計	2	8	22	8	4	10	19	6	3	4	86



(2)学習会の形態・参加人数・テーマ (①は研修会開催 68回分の集計)

①形態

DVDのみ	23回
講師による講話	30回
DVDと話し合い	2回
DVDと講師による講話	12回
講師による講話と話し合い	1回

※研修会への参加者：のべ 1,993 人
(前年度： 1,422 人)

(研修会開催回数 **68** 回)

②テーマの内訳

	研修会	全戸配付	回覧
同和問題	13回	5回	2回
高齢者	10回	1回	2回
認知症	13回	回	回
障害者	6回	回	回
子ども	12回	回	回
女性・男女共同参画	2回	回	回
性的指向・性自認	3回	回	回
ハラスメント	2回	回	回
外国人	1回	回	回
インターネット	4回	1回	回
家庭の中の人権	8回	回	回
人権全般	回	2回	回
新型コロナ差別	1回	1回	回
その他	13回	1回	1回

→ まちづくりと人権、患者の人権他

(3)配付・回覧いただいた人権啓発資料

- (1件) まずは“自分”から 差別の連鎖をなくそう！
～新型コロナウイルス感染症から「人権」を考える～（守山市人権政策課 作成）
- (6件) 人権啓発リーフレット（第25回部落解放・人権政策びわこ南部地域研究集会実行委員会 発行）
- (1件) 多様な性について考えよう！～性的指向と性自認～（守山市人権政策課 作成）
- (1件) 「 」 いくつになっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために～
- (1件) ころやわらかく（滋賀県人権施策推進課 発行）
- (1件) ころのいずみへ（滋賀県人権施策推進課 発行）
- (1件) 防ごう！高齢者虐待（社会保険出版社作成・・・守山市地域包括支援センター購入）
- (1件) みんなの認知症サポート（東京法規出版作成）
- (1件) 地域総合センターの研修で使用された資料（守山市地域総合センター 作成）
- (2件) 部落差別解消推進法を知っていますが（守山市 作成）
- (1件) 守山市内における差別手紙事象に学ぶ（守山市 作成）
- (1件) 人権ってなあに？（第25回(2021年)部落解放・人権政策びわこ南部地域研究集会実行委員会 作成）
- (1件) インターネットと子育て（滋賀県教育委員会 作成）
- (1件) 差別の本質を理解し、人権感覚のアップデート（更新）を（第25回(2021年)部落解放・人権政策びわこ南部地域研究集会実行委員会 作成）
- (1件) 認知症サポーター養成講座（守山市地域包括支援センターより資料提供）
- (1件) 2018年度活動報告書（特定非営利法人こどもソーシャルワークセンター 作成）
- (1件) 偏見や差別について考える～人権感覚を磨き、「差別の芽」に気づくために～（滋賀県教育委員会事務局人権教育課 作成）
- (1件) こどもの人権（ころやわらかくより抜粋）（滋賀県教育委員会事務局人権教育課 作成）

2. 工夫して実施された例

(1) 3密を回避し実施された例

- ・大型ディスプレイを用いて、遠くからでも資料が見やすい環境に努めた。
- ・1.2階で会場を分け、2階はリモートでの参加とした。

(2) 効果的に実施された例

- ・自治会行事にあわせて開催し参加者を募った。
- ・パワーポイントを使った人権学習と落語を組み合わせることで内容を充実させた。

3. 参加者・自治会担当者の感想（抜粋）

- ・差別意識の根源（思い込み・偏見など）をなくすため、相手の意見を十分に聞き、自分も振り返って考える習慣化を認識した。（自治会担当者）
- ・いまだに根付く差別の実態が良くわかり改めて考え直される思いです。（参加者）
- ・今後、高齢化する親との身近な問題意識と、高齢社会へ向けての考え方が分かった。（参加者）
- ・一般社会で知られていない聴導犬についての現状について、知ることができて良かった。（参加者）
- ・ネットの情報社会は受け手がしっかりと判断しなくてはと考えさせられた。（参加者）
- ・コロナ過の中、感染者さがしをして、人の人権をおとしめることのないようにしたい。（参加者）
- ・コロナ患者やエッセンシャルワーカーへの理解は、以前に比べ進んではきたが、自分の身近な問題として、冷静に対応できるようにしなければならない。（参加者）
- ・落語形式の研修、内容的にも身近なテーマを堅苦しくない雰囲気、聞き入れやすく話されていた。（参加者）

- ・DVDで少子化に触れる場面があったが、DVDの内容以外に各自が職場の制度見直しや運用上の配慮を行うことや行政による制度改革も欠かせないと感じました。（参加者）
- ・家庭内の役割で、家事は妻がして当然という考えをなくし、一緒にやっていくという考えに共感しました。（参加者）
- ・何事も意見を交換すれば良い方に考える事ができ、一人よがりにならない様に気を付けることが大事。（参加者）
- ・家族で何かにつまづいたときは1人がかかえこまずに家族で話し合えるようにすると気持ちもラクになると思いました。（参加者）
- ・ビデオを鑑賞して感じられた事は、自分の意見だけでなく他の人の意見を聞くことの必要を感じました。（参加者）
- ・自分の心で向き合うこと、学び続けることを再度考えさせられました。（参加者）
- ・性別でこうあるべきという考えは間違っていると気づかされました。（参加者）
- ・笑いを切り口に人権に関わるいろんな事に気づかされた。（参加者）
- ・時には子供を誉め、自分の価値観、自尊心の高揚に繋げる大切さを理解した。（参加者）
- ・自分の中では正解だと思っている事も他人からだとうことがよくわかった。（参加者）
- ・認知症の方との関わり方や、こちらの意識の持ち方について学べた。思いこみをしていた事に気づいた。（自治会担当者）
- ・コロナ急増の中、当初の想定よりも人が集まらなかった。次回開催に際して、もっと学習会を周知していきたい。（自治会担当者）
- ・人権学習会というと、どうしても敷居が高く感じてしまう。今回のようにDVD視聴のみなら参加しやすい。（自治会担当者）
- ・講師が準備してくださったプレゼン資料が大変分かりやすく、満足度が高めな反面、実際にご家庭で認知症の方がいらっしゃる方からは現実的な意見が聞かれた。（参加者）
- ・身近なテーマであり、家庭内での話し合いの必要性を強く感じさせられました。（参加者）
- ・多くの参加者から講師の話が分かりやすいとの回答があった。（参加者）
- ・障害者と聴導犬の生活ぶりが分かってよかった。（参加者）
- ・（DVD企業と人権）様々な立場の違いを感じました。事案と対応策が説明がありよかった。（参加者）
- ・関心を持って話を聞くことができよかった。一方、再確認はできたが、新しい発見がなかったのは残念との意見もあった。（参加者）
- ・冒頭が人権落語であり、形式にとらわれないので話が聞きやすかった。（参加者）
- ・認知症についてよくわかった。今後の対応について考えができた。（参加者）
- ・日常の中で気づかぬうちにかかわっている人権について再認識することができた。（参加者）

4. 今年度の成果

- ・資料配布や回覧のみを実施する自治会より、研修会を実施する自治会が増え参加人数も昨年より増加している。
- ・講師による講話を企画する自治会も増加し、学習会がより有効に開催できるようになった。

5. 今後の課題

- ・参加者の年齢層が高いため、若年層が参加できるようなテーマやどの世代でも関心が高い企画を提供する。
- ・学習会のより多くの参加者を募るため、広報やチラシ以外の他の伝達手段の活用も検討すべきである。